

## 令和3年度 第2回尾道市公立大学法人評価委員会 書面審議概要

新型コロナウイルス禍の状況を踏まえ、評価委員会を書面審議にて開催した。

1 日 時 令和3年7月30日～8月5日

2 審議委員 萩原泰治委員長、瀬戸務委員、高垣孝久委員、豊田雅子委員、  
藤井保委員

3 書面審議概要

令和2事業年度の業務実績に関する評価結果及び評価結果（小項目評価）について、一部修正の上、作成した。

また、小項目評価、大学業務実績に関し、質疑を書面で行った。

## 主な修正箇所

## ◆資料3-① 評価結果

| ページ | 項目      | 修正前  | 修正後  |
|-----|---------|--|--|
| 10  | 1-(3)-イ | 優良企業からの参加等広域からの参加が実現し、従来以上の効果につながったことは評価できる。 | 優良企業からの参加等、広域からの参加が実現し、従来以上の効果がもたらされたことは評価できる。 |

## ◆資料3-② 小項目評価

| ページ | 項目               | 修正前   | 修正後   |
|-----|------------------|---|---|
| 3   | (1)-②<br>学部・学科   | 《経済情報学部》の自己評価<br>今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対応により、科目コードの入力システムの変更が間に合わなかったようなので、聞き取り調査はしていない。 | 《経済情報学部》の自己評価<br>科目コードの入力のシステム変更の企画準備に調整が必要になり聞き取り調査まで及んでいない。             |
| 62  | (2)-②<br>【学生委員会】 | 〔評価委員会の特記事項〕<br>コロナ禍において感染対策に配慮しながら学生の活動を積極的に取り組んだことは評価できる。                           | 〔評価委員会の特記事項〕<br>コロナ禍において感染予防対策に配慮しながら、学生の課外活動の機会の確保・提供に積極的に取り組んだことは評価できる。 |

◆その他の主な修正箇所

- 表記の統一 「昨年度」→「前年度」
- 表記の軽微修正

◆小項目評価、大学業務実績に関する質問等及び回答

| 質問・意見等  | 大学の回答  |
|---|--|
| <p>小項目評価の「第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(2) 幅広い視野と豊かな人間性をもち、国際的に通用する人材の育成</p> <p>① 社会科学と人文、芸術系を幅広く学ぶ本学独自の教養科目を充実させる。」の項について、年度計画には、「アクティブ・ラーニングの目的に叶った、学生主体の授業の在り方について今後も議論を深めていく。」とあるが、議論をしなかったということか。</p>  | <p>「地域をテーマにした授業新設」を主に議論しておりましたが、コロナ禍の影響で「学生・教員が地域に出かける」という前提が難しくなり、科目新設の議論をいったん中止することとなり、計画が達成できておりません。</p>  |
| <p>小項目評価「1」の項目の扱いについて</p> <p>コロナ禍での緊急事態宣言、移動制限、移動自粛要請等の影響により実施できなかった計画(取組)については、評価実施要領で想定されていない事態であり、単純に「年度計画を実施していない」との判断・評価で良いのか、関係項目の扱いを検討する必要があるのではないかと考える。一人の委員としての個人的な見解だが、例えば、特例的に「評価の対象項目から除外する」のような対応があっても良いのでは、と考える。</p>  | <p>(評価委員会事務局)</p> <p>コロナ禍においても可能な限りの対応により評価「2」以上となっている項目もあることから、除外せず評価したいと考えます。</p>  |
| <p>令和2事業年度 業務実績報告附属資料の2 ページ目に就職者の市内比率の項目を追加してもらいたい。(県立広島大学ではなく、尾道市立大学なので)</p> <p>福山市立大学の福山市内企業への就職率が54%に達したと聞いた。(直接大学から聞いたわけではないので、真偽のほどはわからない。)以前は福山市立大学でも福山市内企業への就職率が低迷しており問題となっていたが、経済界が強く要望し、福山市内への就職率を向上させるようしっかりと取り組んだ結果、きわめて良い方向に進んだとのこと。</p> <p>こういう話をするとすぐ、「福山市には学生の入社したい企業があるが尾道にはない。」という声が聞こえてきそうだが、2022年採用の弊社の採用では、福山市立大学卒の学生が3名内定しており、同大学からの卒業生は三年連続で採用出来ているが、尾道市立大学卒の学生</p> | <p>○来年度の業務実績報告附属資料からは、市内の就職状況も記載します。</p> <p>○本学学生の市内企業への就職率についてですが、本学における市内出身者が毎年10名程度であり、そのため、市内での就職率は1%程度に止まっています。そのような状況下で、まずは学生のニーズ(市内企業に対する認識度)を喚起することを目的に後期の課外講座等で企業との接点をつくりたいと考えております。具体的には、地</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>は、過去三年間でゼロである。大学の考え方の違いが大きいのと言わざるを得ない。尾道市立大学の合同説明会に参加しても参加学生数が参加企業数を大きく下回る状況である。</p> <p>現在尾道市内企業への進学率は1%程度だと拝察するが、最低でも10%以上は尾道市内企業へ就職する学生が増えるよう、お互いに取り組んで参りたいと思う。</p> | <p>元経営者団体（中小企業同友会、商工会議所等）と相談の下、企業の方にパネルディスカッション形式で自社の強みや魅力、現在の課題を語っていただくことを想定しています。</p> |
| <p>第7 財務内容の改善に関する目標</p> <p>令和2年度の外部資金の獲得額は過去3年対比で最も少ない。収益性の向上についても考慮してほしい。ホームページ等による寄付の募集についての周知が望まれる。</p>   | <p>承知しました。</p>  |